

【田原市博物館 テーマ展】

巻物 一横長の書物一

令和6年2月10日(土)
～令和6年4月7日(日)

巻物は古くから記録媒体として利用されてきました。横に広げると、巻物は実はとても長く、普段はほんの一部しか展示できません。本展では長大な横長の絵画をお楽しみください。

展示室

特別展示室

指定	作者	作品名	制作年	材質	員数	備考
	わたなべかざん 渡辺華山	りょうごくぼしすこう 両国橋図稿	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	卷子	松林桂月旧蔵
	渡辺華山	ゆうきょきぶんかん 幽居記聞巻	天保10(1840)年	紙本墨書	卷子	個人蔵
	つばき ちんざん 椿 椿山	さんかいきしょうすこう 山海奇賞図稿	文政10(1827)年	紙本淡彩	卷子	巴江神社蔵
	椿 椿山	にっこうどうちゅうしんけいず 日光道中真景図	文政12(1829)年	紙本墨画	卷子	
	椿 椿山	せきふ 石譜	天保13(1842)年	紙本淡彩	卷子	
		がじんぶつしよしきかん 画人物諸式巻	江戸時代後期	紙本墨書	卷子	椿 華谷旧蔵
市指		つばきけけいふならびにしやうじしふ 椿家系譜並東海林氏譜	明治時代	紙本墨書	卷子	
	かぶらぎ かく 鏑木華国	わたなべかざんひつしゅうしんけいず ほん 渡辺華山筆四州真景図模本	明治29(1896)年	紙本淡彩	卷子	3巻のうち2巻
	鏑木華国	つばきちんざんひつさんかいきしょうすこう 椿椿山筆山海奇賞図模本	明治29(1896)年	紙本淡彩	卷子	3巻のうち1巻
	のぐちゆうこく 野口幽谷	かそうがかん 花草画卷	明治時代	紙本墨画淡彩	卷子	個人蔵
	野口幽谷	かきずかん 花卉図巻	明治時代	紙本墨画淡彩	卷子	個人蔵
		たかしまりゅうほうじゆつちゆういでんじゆ 高島流砲術中位伝授	嘉永5(1852)年	紙本墨書	卷子	(陸奥国)真船忠蔵宛
		ほうじゆつしよふんのこと 砲術起証文之事	天保8(1837)年 ～元治元(1864)年	紙本墨書	卷子	

市指＝田原市指定文化財 表記のないものは全て当館所蔵

田原市博物館

◎お知らせ

2月27日(火)～3月6日(水)の期間中は閉室しています。

<作者紹介>

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を学びました。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

椿 椿山 享和元(1801)年～嘉永7(1854)年

はじめ金子金陵に師事しました。金陵が亡くなった後、同じく金陵の門下であった渡辺華山の弟子になります。蚕社の獄で華山が逮捕された際は、その救済に奔走しました。華山没後は、華山の家族を献身的に支えました。花鳥画を得意とし、輪郭線を描かない方法で花卉図などを多く制作しました。

椿 華谷 文政8(1825)年～嘉永3(1850)年

椿椿山の長男として江戸に生まれました。渡辺華山の画塾に入門し、15歳の時に「華谷」という画号を華山より贈られました。椿山の後継者として期待されましたが、わずか26歳で夭折しました。

野口幽谷 文政10(1827)年～明治31(1898)年

大工の棟梁源四郎の次男として江戸に生まれました。嘉永3(1850)年、椿椿山に師事し、花鳥画を学びました。明治5(1872)年のウィーン万国博覧会や明治10(1877)年の第1回内国勸業博覧会に出品し、画技を認められました。明治23(1890)年、橋本雅邦らとともに帝室技芸員に任命されました。弟子に椿山の孫である椿二山や松林桂月などがいます。

鏑木華国 明治元(1868)年～昭和17(1942)年

田原藩士鏑木家の長男として生まれました。渡辺華山の次男である渡辺小華に絵を習います。渡辺華山の顕彰に尽力し、明治43(1910)年、華山会が創立されると常務理事に就きました。また田原城二の丸櫓跡に華山文庫を建設しました。

松林桂月 明治9(1876)年～昭和38(1963)年

山口県萩市に生まれました。明治26(1893)年に上京し、翌年、椿椿山を師とする野口幽谷の弟子になります。日本美術協会展や文展に出品し続け、南画界の重鎮と言われます。昭和19(1944)年、優秀な美術家へ与えられる帝室技芸員に任命され、昭和33(1958)年には文化勲章を受けました。

高島秋帆 寛政10(1798)年～慶応2(1866)年

長崎町年寄の高島四郎兵衛茂紀の三男として長崎に生まれました。はじめ荻野流砲術を学び、出島のオランダ人から西洋砲術を学んで高島流砲術と名付けました。天保12(1841)年、幕命により徳丸ヶ原(現在の東京都板橋区高島平)で西洋式の調練を披露しました。弟子に江川坦庵らがいます。

村上範致 文化5(1808)年～明治5(1872)年

田原藩士の村上照員の長男として現在の田原市田原町で生まれました。範致は銃砲術に強い関心を持ち、優れた西洋式砲術家として有名な高島秋帆に入門し、西洋式砲術を学びました。その後、高島流砲術を田原藩に導入するとともに、藩校成章館で多くの藩士を教育しました。